国内産いもでん粉を支援する仕組み

● でん粉の価格調整制度の目的

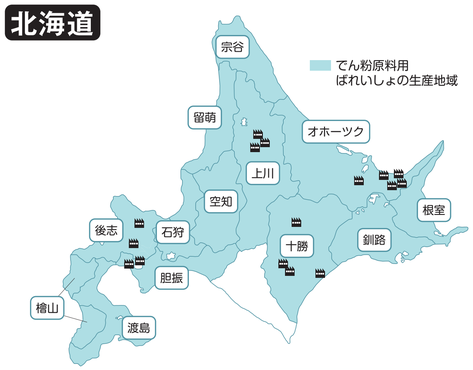
　でん粉は、様々な食品や製紙、医薬品の原材料として私たちの生活に欠かせない物資です。このため、輸出国と比べて、生産条件が不利な国内産いもでん粉を支援し、でん粉が安定供給されるようにしています。

でん粉は国民生活に必要 → 国内産いもでん粉は生産条件が不利 → 価格調整制度で国内産いもでん粉を支援 → でん粉の安定供給を確保

国内産いもでん粉の生産地域

【ばれいしょの生産地】

北海道



ばれいしょは、北海道の基幹作物の一つで、輪作体系を維持する上でも重要な作物です。地元のでん粉工場（16工場）は地域経済を支える重要な産業となっています。

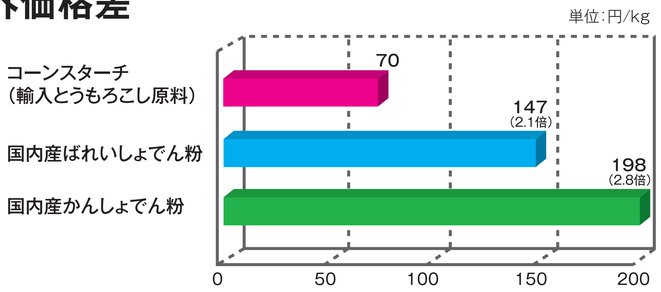
【かんしょの生産地】

鹿児島

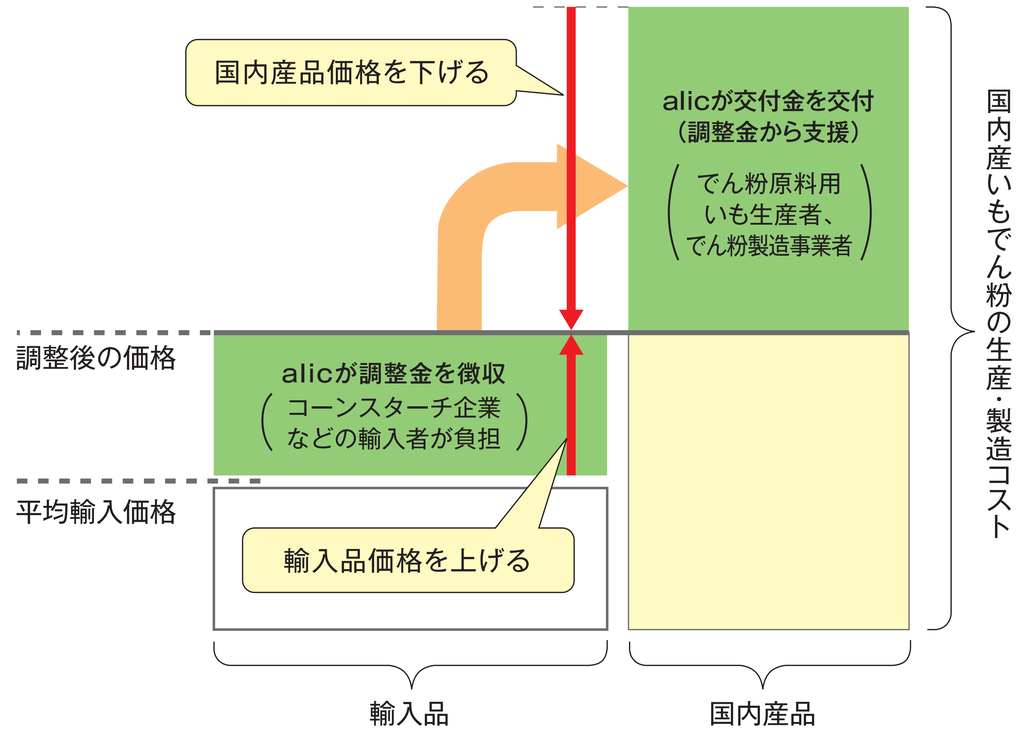
かんしょは、南九州地方（鹿児島県及び宮崎県）の代替のない基幹作物です。離島では、種子島で生産しています。かんしょでん粉工場は、鹿児島県に15工場あり、地域経済を支える重要な産業となっています。

国内産いもでん粉の内外価格差

国内産いもでん粉は、主要な輸出国と比べて経営規模が小さい等、原料作物の生産条件の違いや工場の立地条件に大きな差があるため、ばれいしょでん粉で2.1倍、かんしょでん粉で2.8倍の内外価格差があります。



でん粉の価格調整制度の仕組み



　国内産いもでん粉を支援するため、国の政策としてコーンスターチ用輸入とうもろこしや輸入でん粉から調整金を徴収し、これを財源として国内のでん粉原料用いも生産者とでん粉製造事業者へ交付金の交付を行っています。

alic（独立行政法人農畜産業振興機構）は、でん粉の価格調整制度の実施機関となっています。

参考：国内産いもでん粉の内外価格差のデータは、農林水産省農産局地域作物課調べ。（令和2でん粉年度）